

## 新潟市学校給食懇話会からの提言について

資料4

### 1 懇話会開催の背景

- ・食生活の乱れ                      ・食育のさらなる充実への高まり                      ・食材・設備の進化
- ・コロナ禍での休校による欠食などから学校給食の役割を再認識
- ・中学校給食で大きく異なる提供方式  
⇒ 子どもたちや食を取り巻く環境の変化を踏まえ、学校給食のあり方を検討

### 2 会議の経過

#### (1) 委員

学識経験者3名      食育関係者1名      農業関係者1名  
保護者代表2名      公募委員1名  
(オブザーバー      学校長2名、栄養教諭2名)

#### (2) 会議開催

第1回      2月 9日(木)      現状と課題、検討項目の確認  
第2回      2月16日(木)      学校給食の現場視察及び試食  
第3回      3月27日(月)      見直しに向けた議論  
第4回      6月 9日(金)      学校給食の現場視察及び試食、見直しに向けた議論  
第5回      7月28日(金)      見直しに向けた議論  
第6回      10月 4日(水)      提言案について

#### (3) 主な論点

- ・適切な栄養摂取による健康の保持増進
- ・学校給食を活用した小学校から中学校まで切れ目のない食育
- ・地産地消を含む魅力ある給食提供  
⇒ 実現するための今後の学校給食のあり方

### 3 提言の概要 (提言受領10月20日)

#### (1) 学校給食を通して目指す子どもの姿

- ・心身の健康と健全な成長                      ・考える力・生きる力を身に付ける
- ・他者への思いやりや感謝の気持ちをもつ                      ・地域に愛着や誇りをもつ

#### (2) 目指す学校給食の姿

ア 基本的な方向性      子どもが主体的に給食に関わる機会を創出

イ 具体的取組

(ア) 全校で「食缶方式による全員給食」とすべきである。

- ・必要な栄養のある食事を全員に提供できる
- ・給食を教材とした食育を進めやすくなる
- ・適温でよりおいしい給食となり、残食の改善につながる
- ・配膳等の共同作業を通して、考える力などが身に付く

(イ) 配膳や準備、喫食の時間を十分に確保すべきである。

- ・給食を「楽しい食事の時間」として、豊かな学校生活を送ることができる

ウ その他

- ・学校・家庭・地域が連携した食育を推進
- ・地産地消を推進